# 「熱物性」投稿規定

1986 年 7 月制定
1991 年 4 月改定
1998 年 1 月改定
2008 年 1 月改定
2024 年 9 月改定
2025 年 9 月改定

## １． 会誌発行の目的

会誌「熱物性」(Netsu Bussei、副次的標題 Japan Journal of Thermophysical Properties) は日本熱物性学会の全会員に熱物性情報を伝達・普及する目的で発行するもので、学会活動の重要な一環である。

また、熱物性の応用に関する全分野にわたる我が国で最も権威ある定期刊行物として広く認められることを目的として編集する。年間４号発行し、通し頁をつける。各号には原則として、論文、速報、または総合論文から少なくとも１編、総説、解説または展望から少なくとも１編を掲載する。他の記事は適宜掲載する。

## ２． 投稿資格

投稿原稿の著者(連名の場合は１名以上)は日本熱物性学会会員であることを要する。ただし、編集委員会で認めた場合はこの限りではない。

## ３． 会誌が扱う熱物性

会誌が扱う熱物性とは次の範囲である。熱または物質の移動現象、エネルギー変換と平衡状態を対象とする応用科学、工学または工業において必要な物性データの測定、推算、評価、収集、普及。

(補足) 具体的には、固体・液体・気体を問わず、あらゆる科学・工学的および工業的物質または材料の下記 Keywords を主とする物性データ、測定、測定法および機器、物性値の推算、シミュレーション、評価、収集、普及ならびにこれら周辺問題。

[Keywords] 温度、熱伝導率、熱拡散率、放射率、反射率、拡散係数、粘性率、比熱、潜熱、密度、体積膨張率、音速、表面張力、界面張力、臨界定数、蒸気圧、相平衡、状態方程式、溶解度、平衡定数、屈折率、誘電率、透過率、吸収率、導電率、分子シミュレーション、その他。

## ４． 原稿の種類

投稿原稿を、論文、速報、総合論文、総説、解説、展望、講座、ノート、会員交流に大別する。これらの原稿は和文または英文で、別に定める「原稿執筆要綱」に沿って執筆される。本文が和文、英文いずれの原稿においても題名、著者名、所属(研究機関)、所在地(研究機関の所在地)および要旨を、和文および英文で本文の前に添える。ただし、講座、ノート、会員交流には要旨を付けない。

本文は、緒言、理論、実験、結果、考察、結論、謝辞、参考文献のような順番とし、簡潔な表現で書く。これらのうちで不要な項目は省く。

原稿は、本投稿規定および別に定める執筆要綱注１）に従い、テンプレートファイル注２）を適宜利用し、ワープロソフトもしくはＤＴＰソフトで作成する。図・表を貼り込む際には、印刷サイズが原稿の 82%に縮小されることを考慮し､解像度やファイルサイズに配慮して電子ファイル内に直接貼り付ける。（不必要に高解像度のファイルを貼り付けファイルサイズを大きくしないように配慮する。）

注 1、2）執筆要綱、テンプレートファイルは、本投稿規定同様に熱物性学会ホームページよりダウンロードして参照・利用可能である。

刷上り頁数は次の各項に記載するが、内容によりそれを越えることができる。

### ４．１　論文

論文は他の学術刊行物に未発表のもので、熱物性および関連領域における独創的研究で、価値ある事実、熱物性データや結論、新しい測定技術の開発、熱物性値の収集、評価、推算に関する新しい知見を含むものとする。

和文：300 字以内、英文：150 語以内の要旨を付ける。刷り上がり６頁以内。

### ４．２　速報

速報は熱物性および関連領域における断片的研究で、新しい事実や価値あるデータ、価値ある新しい技術的知見(測定方法、装置や測定上のノウハウ)を含むもので、著者が将来引用できるレベルのものとする。速報の形式も論文に準ずるが、内容や長さを考慮して簡潔な構成となるように工夫する。

和文：150 字以内、英文：75 語以内の要旨を付ける。刷上り２頁以内。

### ４．３　総合論文

総合論文は熱物性および関連領域の研究で、既に著者が本誌あるいは他の学術雑誌などに原著学術論文として掲載された内容を簡潔に総合し、質的に新たな総合的知見を加えたものか、特定の熱物性値を収集評価したものとする。基礎となった原著学術論文の別刷各１部を添えることが望ましい。

和文：300 字以内、英文：150 語以内の要旨を付ける。刷上り 10 頁以内。

### ４．４　総説、解説、展望

総説、解説、展望は熱物性および関連領域の種々の課題や、最近の研究動向・進歩について参考文献を付して総括的に解説する。総説は著者の観点が明確に出ているもの。解説は他分野の会員にもわかりやすく記述されているもの。展望は将来の見通しが含まれるものとする。これらは会員からの自発的投稿および編集委員会からの依頼によるものとする。

和文：300 字以内、英文：150 語以内の要旨を付ける。刷上り 10 頁以内。

### ４．５　講座

講座は重要な基礎知識についての講義または解説とし、テキストとしてもそのまま使用できるように留意して執筆する。要旨は付けない。

刷上り６頁以内。

### ４．６　ノート

ノートは研究、技術開発などで生まれたアイディアやノウハウ、新装置の開発、筆者の経験した事柄などで、一般読者の参考になる可能性のあるものを具体的に紹介する。要旨は付けない。刷上り２頁以内。

### ４．７　会員交流

書評：新刊本の紹介など。会員の声：学会、会誌への意見など。報告： 新しい実験装置の紹介、研究室紹介、研究機関訪問記、学会参加報告など。要旨は付けない。刷上り２頁以内。

## ５．投稿原稿の取り扱い

### ５．１　原稿の提出

執筆された原稿のオリジナルファイルおよび図表の電子ファイルは著者のもとに保管し、PDF ファイルに変換した原稿を電子メールに添付して編集委員長に提出する。原稿を受理後２週間以内に編集委員長より確認の電子メールを送信する。

なお、規定の手続きを経て掲載が決定した場合には、オリジナル電子ファイル（PDF 化していない、ワープロソフトなどのファイル）、ならびに図表の電子ファイル（JPEG、GIF その他の形式）の提出を求める場合がある。

なお、総合論文に添付の別刷など、返却の必要がある場合は、原稿提出時にその旨を編集委員長に連絡する。

### ５．２　原稿の審査

受付した原稿は審査員の査読を経て編集委員会で採否を決定する。原稿の取り扱いについては内規に定める。自発的投稿・依頼投稿のいずれの場合も、原稿の一部書きかえを要求することがある。書き直し・再提出を求められた原稿は返送の日から２ヶ月以内に再提出しなければならない。これを越えたものについては投稿の意志がないものとして整理することがある。

### ５．３　受付・受理年月日

編集委員会が原稿を受け取った日を受付年月日、編集委員会で掲載が決定された日を受理年月日とする。これらの日付は編集委員会からの通知により、著者が最終原稿に書き入れる。

## ６．　著作権

会誌に掲載された論文、総説などの著作権は、著者最終稿が日本熱物性学会に届いた時点から本学会に帰属する。転載などの申請に対しては、編集委員会において検討し、編集委員長が可否を決定する。また、総合論文、総説などにおいて、図・表などを他の論文などから転載するときは著者がその責任において著作権所有者より転載の許可を得るものとする。

会誌「熱物性」に掲載された論文、総説などの記事の機関リポジトリへの収載を認める。ただし、収載できる記事は、著者最終稿とし、本記事が掲載された会誌の発行から１年以上が経過していることを条件とする。また、その際、著作権が日本熱物性学会に帰属することを明示するとともに、記事の掲載情報（雑誌名，巻，号，頁）を表記する。

## ７． その他

### ７．１　論文掲載料

下記の表により定める。

論文掲載料（10%税込）

（円）

| 1～３頁 | 4～６頁 | ７頁 | ８頁 | ９，10 頁 | 以降２頁毎に |
|---|---|---|---|---|---|
| 26,000 | 36,000 | 40,000 | 49,000 | 58,000 | 13,000 加算 |

●カラー印刷をご希望の場合は、上記料金に 33,000 円/1 頁（10%税込み）加算となります.

※2024 年までは、論文掲載料(別刷り)としてお支払いをお願いしていましたが、2025 年からは別刷りの印刷は行わないことになりました。別刷りを希望される方は、掲載決定の際に、その旨を編集委員会にお伝えください。

### ７．２　本誌の表記法

本誌を出版物などで引用する際の表記法は、和文の場合は「熱物性」、英文の場合は「Netsu Bussei」または「Jpn. J. Thermophys. Prop.」とする。

### ７．３　訂正

印刷・発行後、記述内容、数値などに誤りがあった場合は速やかに編集委員長に連絡する。編集委員会において検討のうえ訂正記事を掲載する。

### ７．４　J-STAGE への掲載

会誌「熱物性」に掲載された原稿は J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）電子ジャーナルに掲載される。